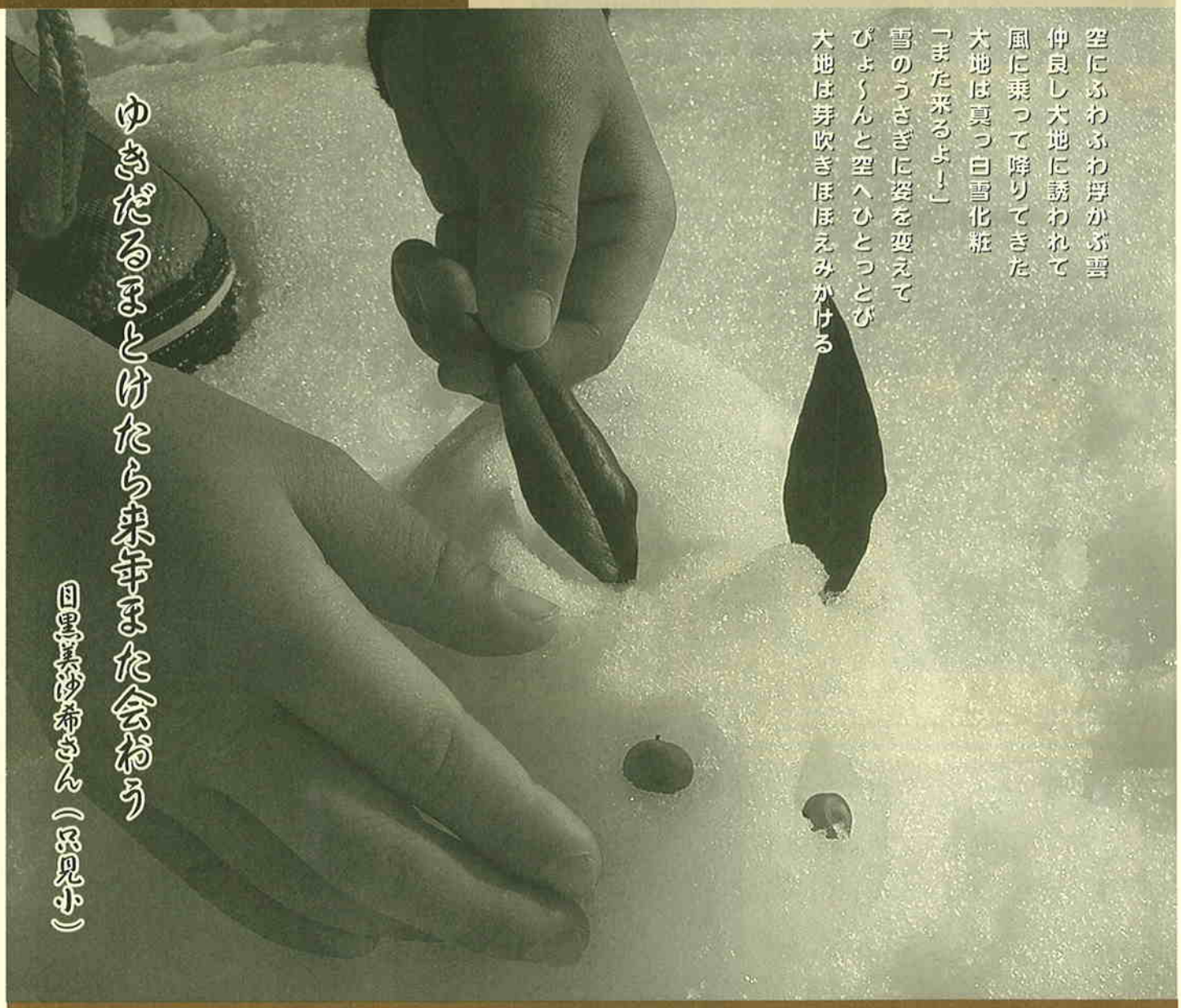
歳時記の郷
奥会津だより
2005年初春
第28号

雪で遊ぶ

空にふわふわ浮かぶ雲
仲良し大地に誘われて
風に乗って降りてきた
大地は真っ白雪化粧
「また来るよ！」
雪のうさぎに姿を変えて
ぴょ～んと空へひとっとび
大地は芽吹きほほえみかける



ゆきだるまとけたら来年また会おう

目黒美沙希さん（只見小）

奥会津つれづれ

一年の始まりである一月には、多くの歳時記がある。タンゴさしや山入りなど、あまり見られなくなったものもあるが、サイの神や早乙女踊りなど、変わらずに続いているものもある。

その一つとして、柳津町の福満虚空蔵尊圓蔵寺で行われる「七日堂裸参り」がある。

この祭りは、その昔只見川に棲んでいた竜が襲ってくるということで、村人が一緒になってこの地を守ったことから始まったと言われている。

一月七日の夕方、降り積もる雪の中を、ふんどし姿の男衆が階段をかけ上り、背中から湯気を上げて本堂に入る。男衆と見物客で、本堂の中はあっという間に人でいっぱいになる。

男たちはもみ合いながら一本の綱を登る。ようやく最初の一人がたどり着くと本堂全体から歓声が上がる。参加者が助け合いながら一人、又一人と登っていく。

見物客はお堂の中でもみ合いながら、声を張り上げて応援する人、懸命に写真を撮る人がいて、ここもまた熱気がある。

ふんどし姿の男たちを見ると、いつの間にかみんな寒さも忘れて笑顔になっている。

一つの歳時記を通して、目には見えない、けれど昔から続く思いが伝わってくる。ご先祖様と再会するような時間を与えてくれる、そんな土地に私たちは暮らしている。

道・探訪

みち・たんぼう　其の四

金山町（かねやままち）／昭和村（しょうわむら）

積雪期を迎え、金山町・昭和村の里にはしんしんと雪が積もり、綿帽子をかぶった道祖神や地蔵がいつもと変わらず、家々を見守っている。しかし、その静寂な雪景色の中で人々は眠り込んでいるわけではなく、家の中では手仕事が最盛期を迎え、山々にはスキーヤーの歓声が響いている。

金山町から昭和村へと抜ける国道400号線沿いは、道祖神、とりわけ「双体道祖神」が点々と連なるルートで、金山町小栗山地区から始まり、昭和村の佐倉、喰丸、小野川、両原の各地区で、その姿を見ることができる。

昭和村小野川

昭和村佐倉

金山町小栗山

道祖神は様々な性格を持っているが、この世とあの世の境を塞ぎ、疫病や邪気を村境で防ぐという。街道沿いの村々に住んだ人々にとって最も身近な神で、その思いが石像に凝縮されている。

小栗山地区の石像は高さ75センチほどの「祝言像」と言われる形で、相並んだ男神・女神がそれぞれ酒器をもっている。石肌は摩滅しているものの、穏やかな微笑みの表情がはっきり見て取れる。

一方、雪に閉ざされた家々の中には、手仕事の静かな活気が満ちている。金山町の「ろうそく」づくり、昭和村の「からむし織り」がその代表だ。

ろう絞り

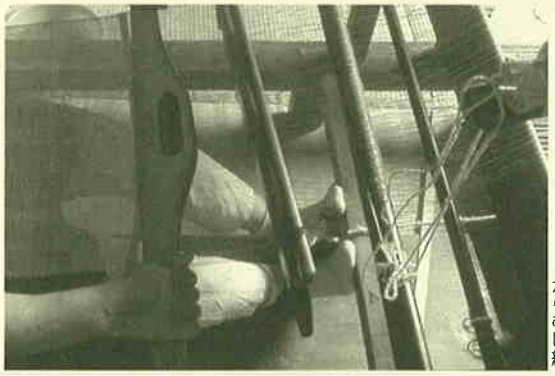
「ろうそく」の原料には金山町では漆の実を使うが、実の採集から蝋の搾取・成型まで全て手作業で行なうため、膨大な時間と手間がかかる。漆ろうの製法を行っているのは全国でもここだけで、本当の伝統品に触れることができる。

絵をつける前のろうそくの肌は青味を帯び、火を着けると普通のろうそくとは違った、穏やかで暖かな光りが灯る。

昭和村の「からむし織り」の機音も冬の風物詩で、手織り機がドンドンという音を立てるたびに、からむしの糸が布に織り込まれていく。ほとんど休憩なしで織り上げられた「上布」は軽く、きめこまやかな布地にはからむしならではの柔らかな光沢がある。

また、こうした静かな営みとは対照的に、金山町の会津金山スキー場、昭和村の権現山スキー場では子供たちや若い世代の歓声がこだましている。太陽が顔を出すと、どちらのスキー場からも、雪景色の大パノラマが見える。空のライトブルーを背景に、降り積もった純白の雪が輝き、延々と続く山ひだがどこまでも遠望できる。

ろうかけ作業


からむし織

問合せ
漆蝋づくり
金山町教育委員会
0241-54-5361
からむし織
からむし工芸博物館
織姫交流館
0241-58-1677
午前9時～午後5時
不定休（要問合せ）

第5回作品　撮影者：吉田由紀子　撮影地：金山町

第7回作品　撮影者：久保寿美枝　撮影地：三島町

奥会津 とっておきの風景

フォトコンテスト入賞作品より

★詳しい撮影場所は協議会のHPへ

■奥会津の歳時記⑪■

早乙女踊り

（只見町）

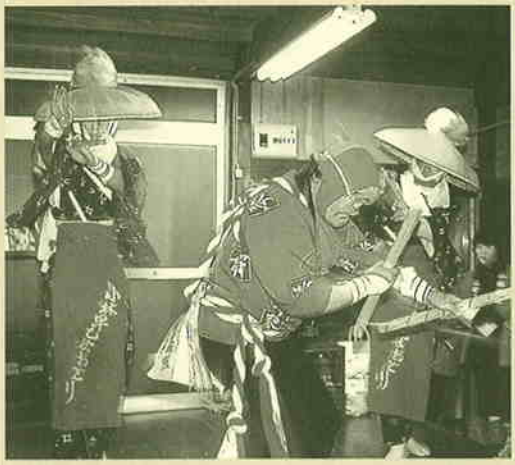
絣の着物に花笠。1月14日の晩は、踊りの一団が家々に舞い込む。目深に被った笠の下には、美しく紅を引いた女装の若衆の横顔がある。

豊作祈願の予祝行事である「早乙女踊り」は、南郷村、只見町、昭和村にいまも伝えられており、保存会などが代々継承してきた。

早乙女のほかに道化役、囃子方が連なり、小太鼓、鼓、鉦、笛、三味線などで賑やかに舞い踊ると、隣近所からも集って来て歌の輪が広がってゆく。

慶長10年の凶作の年から始まったと言われるが定かではない。

男性が女装して舞う姿は、不思議で異様な華やかさを漂わせながら雪の夜を開いてゆく。



OKUAIZU ふるさと写真館

■ 写真・文：竹島　善一 ■

▲（金山町中川・昭和53年1月）
小正月の餅を搗いた。黒光りする台所の調度品には、年期を重ねた貫禄がある。冷たい床板の感触が、板の厚みの確かさと共に本物の生活を足に伝える。

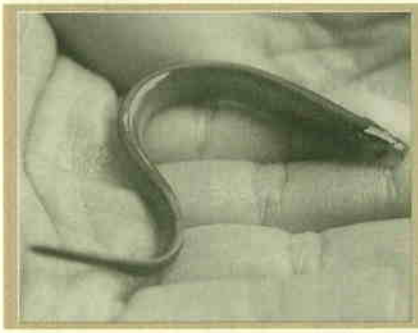
◀（金山町中川・昭和56年2月）
只見川を背に中川の家並みは一列に並ぶ。二月ともなると屋根から落ちる雪は堤のようだ。自然のイタズラで雪に穴があき外が見える。春が見えてくる。

TOPICS

カワヤツメを発見

今年の春、只見町の河川でヤツメウナギ科の魚でカワヤツメ（ヤツメウナギ科）の幼生が生息していることが確認された。今回発見されたのは、川のみを生息地とする陸封型といわれるもの。カワヤツメは普通川で孵化して、変態後に海を下り、生まれた川に遡上し産卵する。只見町のような海から遠く離れ、ダムにより遡上できない内陸部では例がないという。鑑定した富山大学の山崎裕治助手は「生息が確認されたカワヤツメは世界的にも希少な存在で、学術研究上も重要」としている。名前の由来は口が吸盤状で目の後方に左右各七つの鰓孔（えらあな）があるため、一見八つの目があるように見えることから「ヤツメ」と呼ばれたという。

今回発見されたカワヤツメは、河川内で何世代も過ごしてきた種ではないかと推察されている。



第7回作品　撮影者：蓮尾栄一　撮影地：南郷村

第7回作品　撮影者：駒形正二　撮影地：只見町

第3回作品　撮影者：大島一郎　撮影地：昭和村

思い出の一品

- 5 -

「鰊の山椒漬け」

ハレの食卓には必ずといっていいほど登場するのが鰊の山椒漬け。

山椒の葉と共に漬け込んだ鰊の歯ごたえは、香りと独特の風味が好まれて、酒の肴としても人気が高い。

海から遠く隔たり、雪に閉ざされる奥会津では、身欠き鰊は昔から貴重な蛋白源だった。鰊漬けを漬けるための四角い本郷焼の陶器の鰊鉢は、かつてどの家にもあったものだった。

鰊は山菜とも相性がよく、煮物にしたり、鰊味噌を作ったりと、ハレの日を彩る大切な素材である。

乾燥の程度によっても用途が異なるが、今回は、柔らかく身の厚い鰊を山椒に漬け込んだものを、サッとあぶって皿に盛り付けてある。

＊作り方＊

冷凍保存しておいた山椒の葉を器の底に敷き、身欠き鰊を一本のまま並べる。その上にさらに山椒の葉、鰊と何段か重ねて、最後に醤油、酒、酢を合わせて煮立てた出汁をひたひたになるまで注ぎ、二、三日から一週間寝せる。

鰊を一口大に切って山椒の葉を乗せ、そのまま食するのが一般的だが、柔らかい鰊を用いた場合は、サッと焼き上げて、香ばしい香りを楽しみながらアツアツを頂くのも一興。

思い出を一言

栗城 ヤス子さん
（金山町）

山椒の葉っぱは夏のうちに摘んで、サッと湯がいて冷凍しておくの。こうしとくと、いつでも真っ青で匂いのいい山椒が使えるから。

てわざのものたち
～特産品紹介～

槐の木のコースター〈伊南村〉

槐の木は「延寿」とも呼ばれて、縁起の良い木とされてきた。成長が遅く、木質は非常に硬い。寒さに耐えて成長する槐は、外側が白く芯に重厚な色素が沈着して、木目に美しい風情を見せる。

槐は、昔、中国の『槐位』という位を象徴する銘木といわれ、周の時代の朝廷に三公があって、それぞれが庭の三本の槐の木に面して座ったことから、三公の位を示す木になったと言われている。槐の字のいわれは、昔、お面などを槐の木で彫刻し、家の鬼門に置いたことに因む。この木の枝を握ると苦しまずにお産ができるというので、槐の木は魔除け・長寿・安産・幸せの木として重宝されてきた。

◆一枚400円・5枚セット1、700円（㈱想）

いべんと告知板

只見線＆SL写真コンテスト　作品募集中！

◆募集作品

・柳津町から只見町の中で只見線をテーマにした作品。只見線を走る列車、駅舎やレールを写した作品など只見線に関する写真。応募料は無料。

・同一及び類似の作品が他のコンテストに応募していないもの。

・フィルム写真・デジタル写真での応募可。

・締切り　平成17年1月15日(当日消印有効)

第9回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

◆募集する作品

・奥会津の9町村で撮影した風景や人などテーマは自由。応募料は無料。

・同一及び類似作品が他のコンテストに応募されていないもの。

・個人・単作品部門／グループ作品部門

・締切り　平成17年1月15日(当日消印有効)

●詳細については協議会HPまたはコンテスト事務局まで 電話03-5638-2217

※なお、入賞された方の作品は表彰の上、2月25日より舘岩村で展示する予定です。皆様のたくさんのご応募お待ちしております。

奥会津フォトコンテスト　優秀作品発表展を開催！

日時　平成17年1月29日(土)～2月4日(金)
　　午前10時30分～午後6時30分
場所　新宿パークタワー　アトリウム
☆入場無料
お問合せ　事務局　03-5638-2217

フォトコンテスト審査委員長でもある竹内敏信氏による写真展「奥会津秀麗」も同時開催します。お近くにおいでの際は、是非ご来場下さい。

風っこ会津只見　雪まつり号が走ります！

奥会津の冬を彩る雪まつりに併せて、風っこ会津只見雪まつり号が運行します。各地で開催される冬のまつりに、列車に乗ってぜひおいで下さい。

〈運行日〉　平成17年2月5日(土)・6日(日)
　　11日(祝)・12日(土)・13日(日)
〈運行区間〉　会津若松駅～只見駅を1日1往復
〈時間〉　会津若松　9：28発　只見　11：42着
　　只見　13：34発　会津若松　15：40着
〈定員〉　136名(全車指定席)
〈料金〉　大人510円　子供250円
　　(他に乗車券が必要です)
お求め・問合せ　JR東日本主要駅のみどりの窓口、びゅうプラザ、旅行会社へ

柳津町　第25回会津やないづ冬まつり

日　時　平成17年2月5日(土)～6日(日)
問合せ　やないづ冬まつり実行委員会
　　電話0241-42-2114

三島町　第33回雪と火のまつり

日　時　平成17年2月12日(土)
問合せ　三島町役場企画課
　　電話0241-48-5533

金山町　第28回会津かねやま雪まつり

日　時　平成17年2月20日(日)
問合せ　金山町役場産業課
　　電話0241-54-5327

昭和村　第22回からむし織の里雪まつり

日　時　平成17年2月27日(日)
問合せ　昭和村観光協会
　　電話0241-58-1655

只見町　第33回只見ふるさとの雪まつり

日　時　平成17年2月11日(祝)～12日(土)
問合せ　只見町観光まちづくり協会
　　電話0241-82-5250

南郷村　会津高原南郷スキー場

スキー・スノーボードとも滑走可
営業日　平成17年3月27日(日)まで営業
問合せ　電話0241-73-2111

伊南村　会津高原高畑スキー場

スキーヤー専用ゲレンデ
営業日　平成17年3月27日(日)まで営業
問合せ　電話0241-76-2231

舘岩村　会津高原たかつえスキー場

スキー・スノーボードとも滑走可
営業日　平成17年4月3日(日)まで営業
問合せ　電話0241-78-2241

檜枝岐村　尾瀬檜枝岐温泉スキー場

スキー・スノーボードとも滑走可
営業日　平成17年3月27日(日)まで営業
　　※ただし1月17日～3月6日の間は土日のみ営業
問合せ　電話0241-75-2351

編集：奥会津書房　福島県大沼郡三島町宮下　TEL 0241-52-3580
発行日　1月10日発行（年6回発行）
★この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。
発行：只見川電源流域振興協議会
〒968-0421　福島県南会津郡只見町役場　総務企画課企画班内　TEL 0241-82-5220
http://www.okuaizu-style.com/tdrsk/　E-mail:tdrsk@tadami.gr.jp